

総合調査について

概要

茨城県自然博物館では、茨城の風土に根ざした自然に関する総合的な社会教育機関として教育普及機能及び文化的機能を果たすため、その基礎機能の一つとして調査研究活動を展開している（図1）。

調査研究は、博物館学的調査研究と科学領域調査研究の2部門に分れ、総合調査研究は、分野別調査研究と創造的調査研究とともに科学領域調査研究部門を構成している。

目的

県内に分布する地学・植物・動物分野に関する自然資料を調査し、それら相互の関係や変遷のメカニズムを明らかにし、茨城の自然の全体像を把握することを目的としている。

方法

県内を4地域に分け、各地域を3カ年かけて調査をする（図2）。調査は、当館学芸員の調査と大学等の各分野の研究者及び地域の研究者で構成される団体への委託により進める。

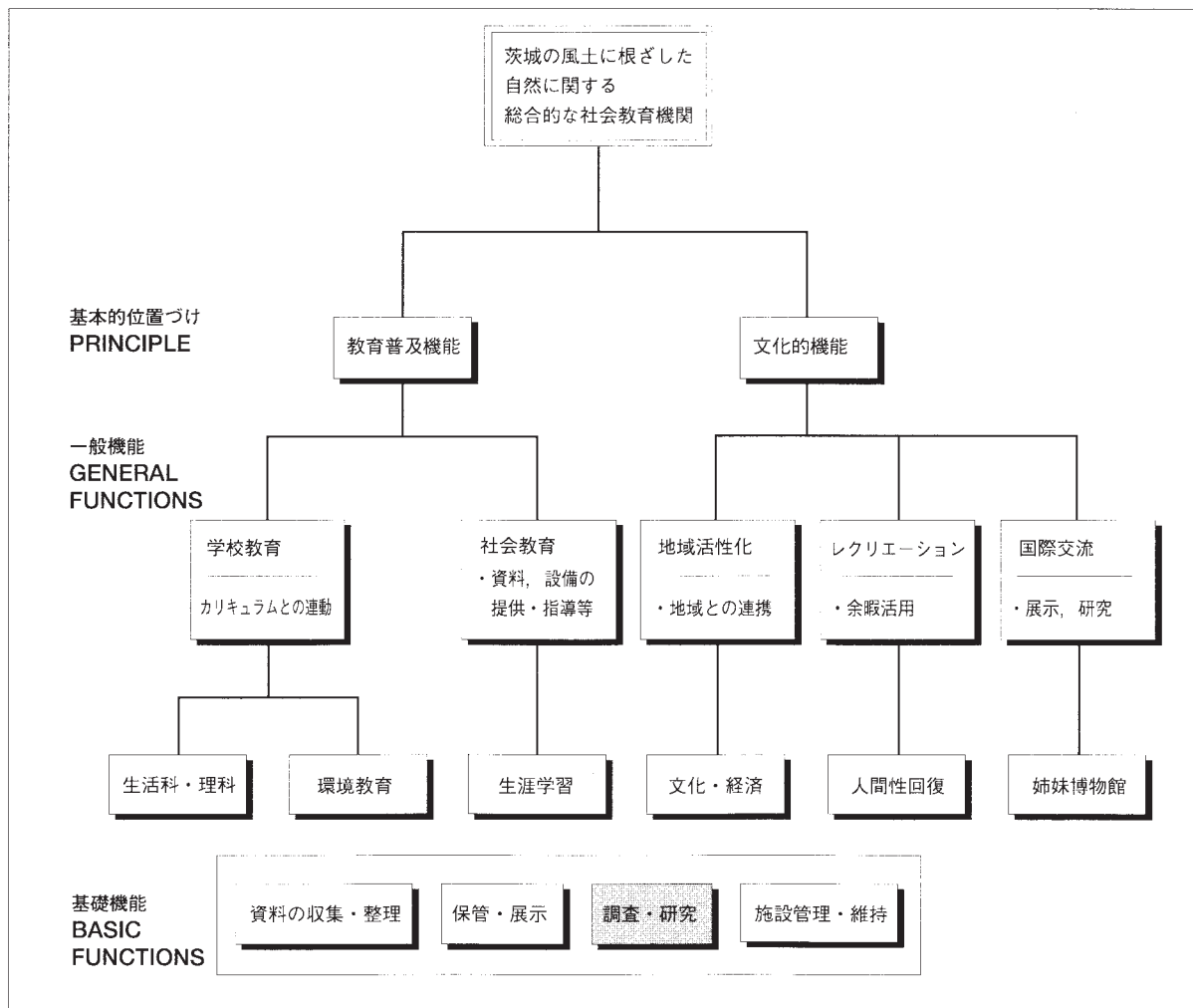


図1. 茨城県自然博物館運営指針。

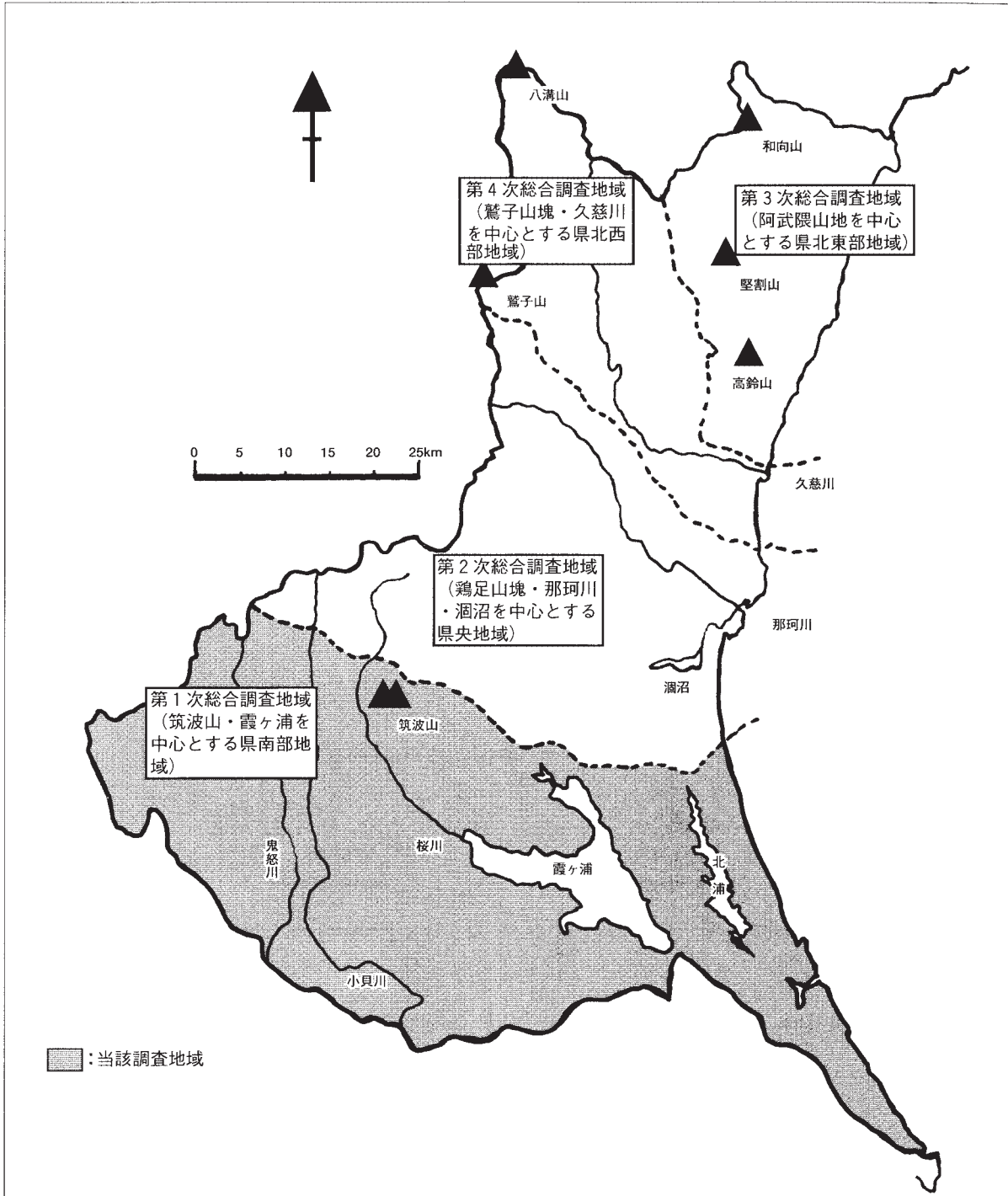


図2. 調査計画図.

第1次総合調査について

概要

調査地域は、筑波山・霞ヶ浦を中心とした県南部地域で、東西約90 km、南北約60 kmの範囲である。当地域には、北から半島状に延びる八溝山系の筑波山塊、琵琶湖について全国第2位の面積を有する霞ヶ浦、そしてその周辺には盆地、台地、低地、大小の河川や湖沼、さらには延長50 kmに及ぶ海岸が分布し、多種多様な自然が広がっている。

今回の調査では、ここに分布する地学、植物、動物関係資料の調査を実施した。調査は、平成6年度から平成8年度まで3ヵ年実施し、当館職員による調査と県内外の大学・研究機関等の研究員及び県内の各分野の自然に精通する地域の研究家等からなる7つの団体への委託調査による。

調査研究の目的と主要調査内容

1. 地学分野

調査地域の地史を明らかにするとともに、崩落や土木工事等で滅失してゆく露頭からの地学資料の集積をはかるため、その分布調査を実施した。さらに、動植物の分布と密接なかわりをもつ微気象調査も実施した。

- ・筑波山周辺の地質・岩石鉱物の分布調査
- ・貝類・有孔虫類等の化石の分布調査
- ・堆積構造調査
- ・ローム層の分布調査

- ・筑波山・霞ヶ浦の微気象調査
- ・関連文献調査収集

2. 植物分野

調査地域内の植物相の調査及び希少種・分布極限種の分布を調査した。

- ・筑波山・霞ヶ浦の維管束植物（種子植物、シダ植物）のフロラ調査
- ・筑波山頂付近のブナ林の群落調査
- ・霞ヶ浦・鹿島灘の藻類のフロラ調査
- ・筑波山・霞ヶ浦周辺の地衣類のフロラ調査
- ・筑波山の大型菌類のフロラ調査
- ・関連文献調査収集

3. 動物分野

調査地域内の動物相及び特定動物の生態学的調査を実施した。

- ・筑波山の哺乳類のファウナ調査
- ・筑波山の鳥類のファウナ調査
- ・霞ヶ浦の魚類のファウナ調査
- ・筑波山の昆虫類のファウナ調査
- ・筑波山の土壌動物のファウナ調査
- ・関連文献調査収集

委託団体

調査の委託先は表1の通りである。

表1. 調査委託先.

分野	調査委託内容	委託先
動物	筑波山周辺の昆虫類・鳥類・その他の動物相の調査	茨城動物研究会 (代表 廣瀬 誠)
	霞ヶ浦周辺の水生動物の調査及び筑波山周辺の土壌動物の調査	茨城の淡水動物研究会 (代表 菊地 義昭)
植物	筑波山及び霞ヶ浦周辺の維管束植物の植物相及び希少種・分布極限種の分布及びブナ林の群落等の調査	茨城県自然博物館 維管束植物調査会 (代表 鈴木 昌友)
	筑波山及び霞ヶ浦周辺の非維管束植物の植物相及び希少種・分布極限種の分布等の調査	茨城県自然博物館 非維管束植物調査会 (代表 千原 光雄)
地学	筑波山及び霞ヶ浦周辺に特徴的に見られる微気象のメカニズム調査及び関東火山灰層の分布と含有鉱物の調査	茨城地学会 (代表 蜂須 紀夫)
	新生代第四紀層の地質分布及び産出する化石及び堆積構造の調査	成田層研究会 (代表 大原 隆)
	筑波山周辺の地質分布と産出岩石鉱物の調査	阿武隈山地 岩石鉱物調査会 (代表 田切美智雄)

地形概要

本地域の大部分は、海拔高度約15 mから約40 mの洪積台地とその谷を埋めている沖積低地である(図1)。台地は、東部の鹿島台地が最も高く、西部の猿島台地へ向かってしだいに低くなる傾向にある。山地は、海

抜876 mの筑波山を中心とする八溝山系の南端部の筑波山塊がわずかに分布するだけである。また、総面積約170 km²の霞ヶ浦や北浦等の湖沼、鬼怒川や小貝川等の河川、延長50 kmの砂浜海岸が分布する。

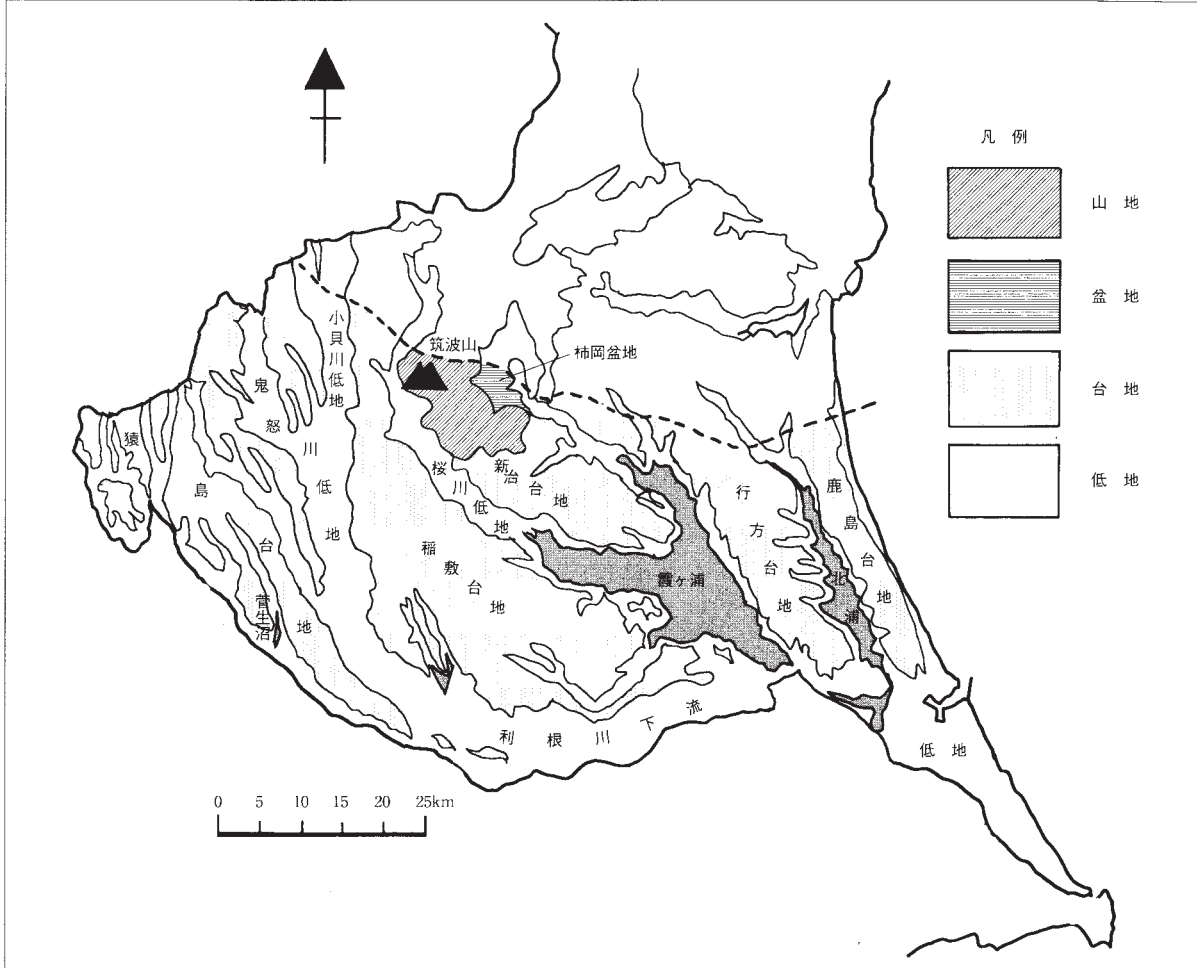


図1. 地形区分図(堀口, 1986を改変).